

教育・研究業績書

講座名 整形外科学		
<教員の紹介>		
教授 野原 裕 教授 玉井 和哉 准教授 長田 伝重 准教授 種市 洋 講師 稲見 聡		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
1. 学生の授業参加意識の向上の取り組み	2006年4月～現在	授業においては、身近な出来事を例にとって説明を進め、視聴覚教材を積極的に活用し、授業科目へ興味を持ってもらうことを意識した。
2. 学生による授業評価の活用	2006年4月～現在	毎学期授業終了後に行われる授業評価アンケートの結果に基づいて授業の理解度と授業方法が適当であるか否かを確認し、時学期以降の授業内容・方法の改善に役立っている。
② 作成した教科書、教材、参考書		
腰椎変性疾患 基本知識とチェックポイント	2004年6月	椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症の病態・治療法をわかりやすく説明し、学生の理解と学習の一助としている。
TEXT 整形外科学	2006年3月	脊椎炎の病態・治療法をわかりやすく説明し、学生の理解と学習の一助としている。
③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項		
講演 第3回側弯症学会卒後研修セミナー 「側弯症診療の歴史」 「神経線維腫症による脊柱変形」	2004年6月	側弯診療の歴史を解説した。 神経線維腫症の特殊な治療法を解説した。
腰部脊柱管狭窄症フォーラム2004 in 旭川 「腰部脊柱管狭窄症－治療と最近の展望－」	2004年6月	腰部脊柱管狭窄症の最新の治療法を述べた。

和歌山脊椎フォーラム 「各種脊柱側弯症の手術と将来展望」	2004年7月	困難な側弯症治療につき解説した。
第8回脊椎再建セミナー 「特発性側弯症に対する KASS 応用の Short Segment Fusion—その意義と成績—」	2004年7月	側弯症の前方矯正の優れた成績を紹介した。
The 4 th meeting of ATST 「ATST Meeting のもつ意義と役割」	2004年7月	会長講演で勉強会の意義につき解説した。
千葉西北部整形外科研究会 「変性腰椎疾患の外来治療のポイントと難治例に対する手術療法」	2004年9月	変性腰椎患者の外来から手術までの適応と治療法を指導した。
弘前整形外科医会 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療—特のその落とし穴について—」	2004年9月	手術治療での注意すべきことを指導した。
獨協医科大学産業医学講習会 「腰痛予防対策のガイドライン 職場の腰痛の実際」	2004年9月	産業医講習で腰痛の詳細を講演した。
10 th A0 Interactive Spine Course Tokyo 「Thoracolumbar Trauma Choice of Surgical Treatment—Anterior, Posterior, Combined—」	2004年9月	胸椎部外傷の外科的治療方針の概説。
10 th A0 Interactive Spine Course Tokyo 「Spinal Deformities Correction of Adolescent Idiopathic Scoliosis」	2004年9月	思春期側弯症の矯正手術成績の報告
高知 LCS 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療—特にその落とし穴について—」	2004年10月	手術治療での注意すべきことを指導した。
鳥取神経ブロック研究会 「変性腰椎疾患の手術適応と各種神経ブロ	2004年10月	変性腰椎疾患の治療方針とブロックに対する見解を講演。

ックの限界」		
第3回福岡整形外科懇話会 「変性腰椎疾患の治療 特に病態から見た 術式の選択について」	2004年11月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
側弯症学会ランチョンセミナー 「脊柱側弯症の手術—特に難治例の問題点 について—」	2004年11月	高度側弯症に対する矯正手術法の講演
老年医学研修会／実践・高齢者診療セミナー、さいたま研修会 「内科臨床医が知って役立つ腰痛・肩こりの 実践診療ガイド」	2004年11月	一般医への腰痛・肩こりの考え方と対応策の講演
沖縄県臨床整形外科医会 「脊柱変形の診断と治療」	2004年12月	側弯症の病態と矯正手術法の講演
腰痛シンポジウム 「Open Surgery」	2005年3月	いわゆるラブ手術の詳述
東京臨床整形外科医会 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療—特に保 存療法のポイントと手術療法について—」	2005年4月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
静岡整形外科臨床研究会：Prostaglandin Evening Conference in 静岡 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療—特にそ の落とし穴について—」	2005年5月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
日本脊椎脊髄病学会 第3回研修コースII 腰椎変性疾患 「腰部脊柱管狭窄症に対する手術療法（適 応と手技）」	2005年6月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
日本側弯症学会 第4回卒業研修セミナー 「側弯症診療の歴史」	2005年6月	側弯治療の歴史の詳述

日本側弯症学会 第4回卒後研修セミナー 「脊柱変形の治療方針 4) 神経線維腫症による脊柱変形」	2005年6月	困難なNF側弯の治療方針の概説
老年医学研修会 東京研修会 「内科臨床医が知って役立つ腰痛・肩こりの実践診療ガイド」	2005年6月	一般医への腰痛・肩こりの考え方と対応策の講演
平成17年度立山セミナー 「重度脊柱変形に対する治療－最近の治療指針－」	2005年7月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
第39回日本ペインクリニック学会 「腰椎性疼痛の診断と治療－特に手術の適応と判断基準－」	2005年7月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
北海道整形外科医会学術講演会 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療－特にその落とし穴について－」	2005年8月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第39回日本側弯症学会ランチョンセミナー 「脊椎骨切り術・全摘術による重度脊柱変形の治療」	2005年11月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
湘南脊椎脊髄外科フォーラム 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療－手術適応と手技を中心に－」	2005年11月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第40回新札幌整形外科懇話会 「日常よく遭遇する腰椎疾患の診断と治療」	2005年11月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第4回長崎骨粗鬆症特別講演会 「高齢者の脊椎手術と骨粗鬆症」	2005年11月	高齢者脊椎手術の困難な問題点を講演
Sapporo Orthopaedic Seminar 「脊柱側弯症の治療－Up to Date－」	2005年11月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演

埼玉県整形外科医会学術講演会 「脊柱側弯症の治療－Up to Date－」	2006年2月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
大阪市立大学同門会脊椎研究会 「脊柱側弯症の手術的治療」	2006年2月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
第7回島根脊椎・脊髄外科学術講演会 「脊柱側弯症の治療－Up to Date－」	2006年3月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
埼玉県西部医師会講演会 「腰部脊柱管狭窄症の治療－手術と Patient selection－」	2006年4月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第79回日本整形外科学会・三四郎セミナー 「腰部脊柱管狭窄症手術の Pitfall－特に 術前後のアライメントが及ぼす影響－」	2006年5月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第5回日本側弯症学会卒後研修セミナー 「胸椎・胸腰椎・腰椎側弯矯正固定術」	2006年6月	高度脊柱変形の矯正手術の長期成績
第5回日本側弯症学会卒後研修セミナー 「合併症とその対策－概論－」	2006年6月	側弯症手術にまつわる合併症の講演
第5回日本側弯症学会卒後研修セミナー 「Marfan 症候群－症例呈示と Discussion －」	2006年6月	Marfan 症候群の脊柱変形の討論
A0 Spine Local Seminar in Sapporo 「脊柱変形－思春期と変性側弯－」	2006年7月	脊柱変形の教育講演
A0 Spine Basic Course, Kuala Lumpur 「Long-term Results of Anterior Short segment Fusion for Scoliosis」	2006年7月	側弯症の前方矯正術の長期成績
東葛地区腰椎疾患研究会 2006 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2006年7月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演

印旛市郡医師会講演会 「日常よく遭遇する腰痛疾患の診断と治療」	2006年7月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
栃木県整形外科医会講演会 「重度脊柱側弯・後弯変形の外科的治療」	2006年8月	現在可能な矯正手術手技とその適応を講演
ISSR 2006 「高度脊柱変形の骨切り術応用 矯正再建術」	2006年8月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
学術講演会 in Saitama ボナロン 5mg 錠 5周年、35mg 錠発売記念 「骨粗鬆症性椎体骨折の治療」	2006年9月	骨粗鬆症の椎体骨折の治療法を講演。
第13回日本排尿機能学会 「神経因性膀胱にならない脊椎手術－重度脊柱変形の矯正手術をとおして」	2006年9月	難度の高い脊椎手術と神経合併症対策を講演。
第6回鶴舞脊椎脊髄カンファレンス 「成人側弯症の治療と問題点」	2006年9月	成人側弯症の問題点の講演。
A0 Spine Advanced Course, Taiwan 「Long-Term Results of Anterior Correction for Idiopathic Scoliosis」	2006年9月	側弯症の前方矯正術の長期成績
A0 Spine Advanced Course, Taiwan 「Posterior Total Spondylectomy for Correction of severe congenital Kyphoscoliosis -A Case Presentation-」	2006年9月	重度先天側弯の矯正手術手技の提示
越谷市学術講演会 「日常よく遭遇する腰痛疾患の診断と治療」	2006年9月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
呉内科会 学術講演会 「日常よく遭遇する腰痛疾患の診断と治療」	2006年10月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演

12 th A0 Spine Interactive course Tokyo 「Treatment, Correction of Adolescent Idiopathic Scoliosis Anterior and Posterior Approach」	2006年10月	側弯手術の適応と手技選択について
第33回栃木県獨協医学会 「腰痛の病態とプライマリーケア」	2006年10月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
秋田県腰痛セミナー 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2006年10月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第30回社会医学セミナー（獨協医科大学） 側弯症への挑戦 側弯症治療のガイドラインについて	2006年11月	側弯症治療のガイドライン
都民公開講座 「腰痛を克服して楽しい散歩」	2007年1月	一般の方への腰痛克服法を提示した。
神奈川LCSフォーラム 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2007年2月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
旭化成社内講演会 「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療の問題点」	2007年3月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第6回信州脊椎・脊髄病研究会 「脊柱変形・腫瘍に対する脊椎骨きり術応用の全摘術について」	2007年3月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
福井県整形外科医会教育研修講演会 「胸椎・腰椎前方手術の適応と手術手技のポイント」	2007年4月	前方手術の適応と手術手技のポイント
久留米脊椎・脊髄病セミナー 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2007年4月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演

真岡市市民公開講座 「なぜ、腰が痛くなるの？」	2007年5月	腰痛の原因と対策の説明
日本整形外科学会・平安セミナー 「骨粗鬆症における椎体骨折の治療戦略」	2007年5月	骨粗鬆症への外科的挑戦の成績を提示
日本側弯症学会 卒後研修セミナー 「側弯症診療の歴史」	2007年6月	側弯治療の教育講演。
日本側弯症学会 卒後研修セミナー 「脊柱変形の治療方針 神経線維腫症による脊柱変形」	2007年6月	神経線維腫症治療の教育講演。
第22回日本脊髄外科学会 「脊柱側弯症の診断と治療」	2007年6月	脊柱側弯症の診断と治療
宮城県栗原市医師会学術講演会 「日常よく遭遇する腰痛疾患の診断と治療」	2007年6月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
大阪整形外科リハビリテーション研究会 「脊椎手術の進歩－重度脊柱変形に対する矯正固定手術の手技と後療法－」	2007年6月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
日本イーライリリー（株）社内講演会 「脊椎手術の進歩 重度脊柱変形に対する矯正固定手術」	2007年7月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
新潟腰痛疾患フォーラム2007 「腰椎変性疾患の治療と落とし穴」	2007年7月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第18回安比夏期セミナー 「脊柱変形・腫瘍に対する脊椎骨きり術応用の全摘術について」	2007年8月	重度脊柱側弯への脊椎全摘手術
群馬大学整形外科・卒後研修会 「脊柱側弯症の病態と治療－温故知新－」	2007年8月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の歴史

北南埼玉腰痛フォーラム 2007 「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療」	2007年9月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
獨協医科大学産業医学講習会 「腰痛予防対策のガイドライン 職場腰痛 の実際」	2007年9月	職場腰痛の原因と対策の教育講演。
獨協医科大学産業医学講習会 「中高年の腰痛性疾患における鑑別診断」	2007年9月	中高年の腰痛の実際を講演
栃木県整形外科医会 「腰部脊柱管狭窄症の病態と Patient Selection」	2007年9月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
東日本整形災害外科学会ランチョンセミナー 「重度脊柱変形の治療戦略」	2007年9月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
第109回中部日本整形災害外科学会 「腰痛診断のピットフォール」	2007年10月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
近畿腰部脊柱管狭窄症研究会 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2007年10月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
栃木腰痛フォーラム 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2007年11月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
東京・医師会 「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」	2007年11月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第40回中国・四国整形外科学会 「脊柱側弯症の病態と治療－温故知新－」	2007年11月	先人に学んだ現在の治療とその進歩を講演。
北九州腰痛・下肢痛フォーラム 「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療」	2008年1月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
第37回日本慢性疼痛学会 教育講演 「成人の脊柱変形と腰痛」	2008年2月	成人側弯と腰痛の関係について

長岡市医師会学術講演会 「日常よく遭遇する腰痛の診断と治療」	2008年3月	変性腰椎疾患の病態と治療方針の講演
ターナー研究会 「ターナー症候群と脊柱側弯症」	2008年4月	ターナー症候群の脊柱側弯について
中山大學 教育研修講演 「Anterior Surgery for Scoliosis」	2008年5月	日本の前方手術を紹介
第81回日本整形外科学会学術総会 教育研修講演 「高度脊柱変形の手術治療戦略」	2008年5月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
APOAsp 2008 「Anterior Surgery for Scoliosis」	2008年6月	側弯症前方手術についての講演
A0 Spine Seminar in Sendai 「scoliosis」	2008年6月	側弯症の病態と治療に関する講演
A0 Spine Seminar in Sapporo 「scoliosis」	2008年8月	側弯症の病態と治療に関する講演
東日本整形災害外科学会 教育講演 「Osteoporosis spine」	2008年9月	骨粗鬆症による脊柱変形治療対策について
第27回脊椎外科懇話会 「成人側弯症の手術療法と問題点」	2008年10月	成人側弯症の治療について
富山県呉西臨床整形外科医会 「重度脊柱変形の治療指針—成人・各種症候群を含む—」	2008年10月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
日本整形外科学会基礎学術集会 「胸椎の機能解剖」	2008年10月	正常と病的状態脊椎の機能解剖の概説
恵庭南高校 「日常の生活習慣が体に及ぼす影響」特に背骨の健康について	2008年11月	生活習慣と腰痛等の公開講演

和歌山臨床整形外科医会研修会 「変性側弯症の診断と治療」	2008年12月	変性側弯症の治療について概説
A0 Spine Seminar in Sendai 「成人側弯症の問題点と予防の可能性」	2009年2月	成人側弯症の治療について概説
北区医師会学術講演会 「脊柱変形と骨粗鬆症－その手術治療と問題点－」	2009年3月	骨粗鬆症による脊柱変形治療対策について
川崎・多摩地区整形外科 「重度脊柱変形の治療指針－成人・各種症候群を含む－」	2009年4月	高度脊柱変形の骨切り術による矯正の講演
教育活動		
第3回脊椎 Instrumentation カダバーセミナー	2007年8月	屍体で脊椎手術の実際を指導
第4回脊椎 Instrumentation カダバーセミナー	2008年8月	屍体で脊椎手術の実際を指導
第5回脊椎 Instrumentation カダバーセミナー	2009年8月	屍体で脊椎手術の実際を指導

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
整形外科学	教授	野原 裕	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1993年～現在	日本脊椎脊髄病学会 評議員		
1997年～現在	日本側弯症学会 幹事		
1998年～現在	日本脊髄障害医学会 理事		
2007年～現在	東日本整形災害外科学会 理事		
2009年5月～現在	日本整形外科学会 理事		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. <u>Nohara Y</u> , Taneichi H, Ueyama K, Kawahara N, Shiba K, Tokuhashi Y, Tani T, Nakahara S, Iida T: Nationwide survey on complications of spine surgery in Japan. J Orthop Sci 9: 424-433, 2004.			
2. Yasumura K, Ikegami K, Kamohara T, <u>Nohara Y</u> : High incidence of ischemic necrosis of the gluteal muscle after transcatheter angiographic embolization for severe pelvic fracture. J Trauma 58: 985-990, 2005.			
和文			
1. 中村豊, 浅野聡, 飯田尚裕, 木家哲郎, <u>野原裕</u> : 腰椎変性すべり症に対するpedicle screw system併用後側方固定術の治療成績. 東日整災外会誌 16: 219-223, 2004.			
2. 飯田尚裕, 浅野聡, 木家哲郎, 垣花隆之, <u>野原裕</u> : 間欠性陰茎勃起を伴った腰部脊柱管狭窄症手術例の検討. 東日整災外会誌 16: 230-234, 2004.			
3. 木家哲郎, 浅野聡, 飯田尚裕, 阿藤晃久, 金子智則, <u>野原裕</u> : 胸椎後縦靭帯骨化症に対する前方除圧固定術の成績. 東日整災外会誌 16: 585-588, 2004.			
4. <u>野原裕</u> , 飯田尚裕, 浅野聡, 木家哲郎: 脊椎腫瘍の手術 挑戦と限界 脊椎腫瘍に対する広範切除固定術の治療成績. 日整会誌 78: 706-710, 2004.			
5. <u>野原裕</u> , 植山和正, 川原範夫, 芝啓一郎, 谷俊一, 種市洋, 徳橋泰明, 中原進之介: 日本脊椎脊髄病学会脊椎手術調査報告. 日脊椎脊髄病会誌 15: 546-553, 2004.			
6. 安部聡弥, 木家哲郎, 浅野聡, 飯田尚裕, 中村豊, <u>野原裕</u> : 神経線維腫症による脊柱変形に対する脊椎固定術の治療成績. 脊柱変形 20: 152-155, 2005.			
7. 種市洋, <u>野原裕</u> , 植山和正, 川原範夫, 芝啓一郎, 谷俊一, 徳橋泰明, 中原進之助, 日本脊椎脊髄病学会脊椎手術に関する障害予防委員会: 脊椎・脊髄手術の危機管理 脊椎手術合併症の実態 日本脊椎脊髄病学会の調査から. 日整会誌 80: 5-16, 2006.			
8. 木家哲郎, 中村豊, <u>野原裕</u> : 鑑別診断とその根拠 頸椎 頸椎症手術後のC5麻痺 神経根性か脊髄性か 頸髄症			

後方術後の C5 麻痺は神経根性である 椎間孔拡大術追加例の結果から. 別冊整形外科 50: 13-17, 2006.

9. 松本守雄, 千葉一裕, 戸山芳昭, 竹下克志, 星地亜都司, 中村耕三, 有水淳, 藤林俊介, 平林茂, 平野徹, 岩崎幹季, 金岡恒治, 川口善治, 井尻幸成, 前田健, 松山幸弘, 三上靖夫, 村上英樹, 永島英樹, 永田見生, 中原進之介, 野原裕, 岡史朗, 阪本桂造, 猿橋康雄, 笹生豊, 清水克時, 田口敏彦, 高橋誠, 田中靖久, 谷俊一, 徳橋泰明, 内田研造, 山本謙吾, 山崎正志, 横山徹, 吉田宗人, 西脇祐司: 胸椎後縦靭帯骨化症に対する手術成績に影響を与える因子の検討 多施設後ろ向き研究. 臨床整形外科 43: 531-538, 2008.

【症例報告】

和文

1. 保坂幸司, 大関寛, 竹本知裕, 野原裕, 野島孝之: 下腿に発生した先天性線維肉腫の 1 例. 日足の外科会誌 25: 143-147, 2004.
2. 安部聡弥, 大関寛, 竹本智裕, 垣花昌隆, 峯研, 野原裕: 関節固定術後に全人工股関節置換術を行った 2 例. 人工関節会誌 35: 239-240, 2005.
3. 本島太, 大野弥, 竹村通雄, 玉井和哉, 野原裕: 烏口肩峰靭帯の全長にわたり骨化を認めた 1 例. 関東整災外会誌 39: 45-47, 2008.

【総 説】

和文

1. 浅野聡, 野原裕: 手術器械を使いこなす 19 の提案 Osteotomeとchisel. 脊椎脊髄ジャーナル 18: 921-924, 2005.
2. 飯田尚裕, 野原裕: 手術療法の考え方と進め方 腰部脊柱管狭窄症の手術治療. リウマチ科 34: 645-652, 2005.
3. 野原裕: 一般的に遭遇する腰痛の診断と治療. ペインクリニック 27: 627-631, 2006.
4. 野原裕: イラストレイテッド・サージェリー 手術編 頸椎・胸椎・腰椎のfacet fusion technique. 脊椎脊髄ジャーナル 19: 989-993, 2006.
5. 野原裕: 腰椎椎間板ヘルニア治療の最前線 Love手術. 臨床整形外科 42: 197-201, 2007.
6. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 特発性側弯症に対する前方矯正固定術. 整形・災害外科 50: 1399-1404, 2007.
7. 野原裕: 整形外科手術・私のポイント 頸椎症の骨棘切除術. 整形・災害外科 51: 1694-1695, 2008.
8. 中原進之介, 鈴木信正, 野原裕, 佐藤栄修, 植山和正, 長谷川和宏: 脊椎インストゥルメンテーション手術における最近の進歩 国産の Total spinal instrumentation system(MYKRES)の短期成績と開発に関する問題点. 日脊髄障害医学会誌 20: 28-29, 2007.
9. 浅野聡, 飯田尚裕, 野原裕: 関節リウマチの頸椎病変. 関節外科 27: 923-929, 2008.
10. 稲見聡, 野原裕, 種市洋, 並川崇, 竹内大作, 加藤仲幸: 実践編 診断・治療のquintessence 治療手術療法 腰部変性側弯症(後側弯症)に対する手術療法. 脊椎脊髄ジャーナル 21: 481-486, 2008.
11. 並川崇, 種市洋, 野原裕: 脊椎 頸椎損傷. 関節外科 28: 44-55, 2009.

【そ の 他】

和文

1. 野原裕: 整形外科のアイデンティティと構造改革. 整形・災害外科 47: 811, 2004.

2. 野原裕: 医療の進歩と先達のmodification. 脊椎脊髄 747-748, 2005.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
整形外科学	教授	玉井 和哉	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1993年～現在	日本肩関節学会幹事（2007～2008年会長）		
1996年～現在	日本リウマチ学会評議員		
1998年～現在	東日本整形災害外科学会評議員		
1998年～現在	日本関節病学会（旧 日本リウマチ・関節外科学会）評議員		
2002年～現在	日本運動器リハビリテーション医学会評議員		
2005年～現在	日本整形外科学会代議員		
2005年～現在	日本整形外科学会学術用語委員会委員長		
2005年～現在	厚生労働省医師試験委員		
2008年～現在	日本臨床バイオメカニクス学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>玉井和哉</u> : 五十肩・頸肩腕症候群・胸郭出口症候群・筋性斜頸. 水島裕・黒川清 総編集, 今日の治療と看護 南江堂, pp1067-1071, 2004			
2. <u>玉井和哉</u> : 五十肩--病院の立場から. 越智隆弘・菊地臣一編, New Mook整形外科--特集 高齢者の整形外科 金原出版, pp203-207, 2004			
3. <u>玉井和哉</u> : 肩関節. 鳥巢岳彦・国分正一 総編集, 中村利孝・松野丈夫・内田淳正 編集, 標準整形外科学 第9版 医学書院, pp360-379, 2005			
4. <u>玉井和哉</u> : 肘関節. 鳥巢岳彦・国分正一 総編集, 中村利孝・松野丈夫・内田淳正 編集, 標準整形外科学 第9版 医学書院, pp380-391, 2005			
5. <u>玉井和哉</u> : 筋. 岩本幸英・落合直之・木村友厚・富田勝郎・戸山芳昭・中村孝志編, 整形外科学・外傷学 文光堂, pp33-41, 2005			
6. <u>玉井和哉</u> : 骨格筋の構造と機能. 国立健康・栄養研究所（監修）, 香川靖雄・近藤和雄・石田均・門脇孝（編集）, 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 南江堂, pp120-122, 2005			
7. <u>玉井和哉</u> : 運動器疾患. 高久史麿（総監修）・浦部晶夫（監修）, MR教育研修テキストI（2006年版）疾病と治療 エルゼビア・ジャパン, pp155-157, pp159-174, 2006			
8. <u>玉井和哉</u> : 反復性肩関節脱臼. 山口徹・北原光夫・福井次矢（総編集）, 今日の治療指針 2006年版 医学書院, pp757-758, 2006			
9. <u>玉井和哉</u> : Bennett病変, 関節内インピンジメント, 上方関節唇損傷（SLAP損傷）. 守屋秀繁・糸満盛憲・内田淳正・荻野利彦・黒坂昌弘・戸山芳昭編集, 整形外科診療実践ガイド 文光堂, pp556-559, 2006			
10. <u>玉井和哉</u> : 上腕二頭筋・三頭筋腱皮下断裂. 守屋秀繁・糸満盛憲・内田淳正・荻野利彦・黒坂昌弘・戸山芳昭編集, 整形外科診療実践ガイド 文光堂, pp932-933, 2006			

11. 玉井和哉: 診察と診断. 越智隆弘(総編集)・高岸憲二(専門編集), 最新整形外科学体系 第13巻 肩関節・肩甲帯 中山書店, pp21-38, 2006
12. 玉井和哉: 肩峰下除圧術. 中村耕三(監修) 星地亜都司・高取吉雄・織田弘美(編集), 整形外科手術クルズス 改訂第2版 南江堂, pp262-264, 2006
13. 玉井和哉: 腱板断裂に対する手術. 中村耕三(監修) 星地亜都司・高取吉雄・織田弘美(編集), 整形外科手術クルズス 改訂第2版 南江堂, pp265-274, 2006
14. 玉井和哉: 反復性肩関節前方脱臼に対する手術. 中村耕三(監修) 星地亜都司・高取吉雄・織田弘美(編集), 整形外科手術クルズス 改訂第2版 南江堂, pp275-281, 2006
15. 玉井和哉: 肩鎖関節脱臼に対する手術. 中村耕三(監修) 星地亜都司・高取吉雄・織田弘美(編集), 整形外科手術クルズス 改訂第2版 南江堂, pp282-285, 2006
16. 玉井和哉: 野球肩. 越智隆弘(総編集) 越智光夫(専門編集), 整形外科学体系 第23巻 スポーツ傷害 中山書店, pp133-139, 2007
17. 玉井和哉: 外傷総論. 国分正一・鳥巢岳彦 監修 中村利孝・松野丈夫・内田淳正 編集, 標準整形外科学 第10版 医学書院, pp618-645, 2008
18. 玉井和哉: 上腕骨近位端骨折. 岩本幸英(監修) 高岸憲二(編集), 肩関節外科の要点と盲点 文光堂, pp120-125, 2008
19. 玉井和哉: 肩関節疾患. 岩谷力・黒沢尚・江藤文夫・赤居正義・星野雄一・飛松好子(編集), 運動器リハビリテーションクルズス 南江堂, pp284-288, 2008
20. 星川淳人・玉井和哉: 各部位の力学的特性と病態--膝関節. 越智隆弘(総編集) 中村利孝・吉川秀樹(専門編集), 最新整形外科学体系 第1巻 運動器の生物学と生体力学. 中山書店, pp286-294, 2008

【原 著】

欧文

1. Tamai K, Mashitori H, Ohno W, Hamada J, Sakai H, Saotome K: Synovial response to intraarticular injections of hyarulonate in frozen shoulder: a quantitative assessment with dynamic magnetic resonance imaging. J Orthop Sci 9: 230-234, 2004
2. Osada D, Fujita S, Tamai K, Iwamoto A, Tomizawa K, Saotome K: Biomechanics in uniaxial compression of three distal radius volar plates. J Hand Surg [Am] 29A: 446-451, 2004
3. Mashitori H, Sakai H, Koibuchi N, Ohtake H, Tashiro T, Tamai K, Saotome K: Effect of hyperbaric oxygen on the ligament healing process in rats. Clin Orthop 423: 268-274, 2004
4. Sakai H, Yajima H, Hiraoka H, Fukuda A, Hayashi M, Tamai K, Saotome K: The influence of tibial fixation on tunnel enlargement after hamstring tendon anterior cruciate ligament reconstruction. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 12: 364-370, 2004
5. Kitagawa T, Fujiwara A, Kobayashi N, Saiki K, Tamai K, Saotome K: Morphologic changes in the cervical neural foramen due to flexion and extension. In-vivo imaging study. Spine 29: 2821-2825, 2004
6. Osada D, Tamai K, Iwamoto A, Fujita S, Saotome K: Dorsal Plating for Comminuted Intra-Articular Fractures of the Distal End of the Radius. Hand Surgery (Asian Volume) 9: 181-190, 2004
7. Osada D, Tamai K, Fujita S, Iwamoto A, Saotome K: Treatment of distal radius fractures using a new designed

- volar locking plate. A preliminary report. J Jpn Soc Surg Hand 21: 524-529, 2004
8. Fujita S, Osada D, Yamaguchi T, Iwamoto A, Tamai K: Early active exercise after flexor tendon repairs in zones 4 and 5. J Jpn Soc Surg Hand 21: 565-570, 2004
 9. Tamai K, Ohno W, Takemura M, Mashitori H, Hamada J, Saotome K: Treatment of proximal humeral fractures with a new intramedullary nail. J Orthop Sci 10: 180-186, 2005
 10. Osada D, Fujita S, Yamaguchi T, Tamai K, Saotome K: Volar-locking plate fixation for unstable distal radius fractures in elderly patients. J Jpn Soc Surg Hand 22: 406-410, 2005
 11. Sakai H, Yajima H, Kobayashi N, Kanda T, Hiraoka H, Tamai K, Saotome K: Gravity-assisted pivot-shift test for anterior cruciate ligament injury: a new procedure to detect anterolateral rotatory instability of the knee joint. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 14: 2-6, 2006
 12. Kurihashi A, Tamai K, Saotome K, Takemura M, Fujiwara A, Fujita S: Difference in stretching of sarcomeres between medial gastrocnemius and tibialis anterior by tibial lengthening. An experiment in rabbits. J Orthop Surg 14: 147-150, 2006
 13. Hamada J, Tamai K, Ono W, Saotome K: Uremic Tumoral Calcinosis in Hemodialysis Patients. Clinicopathological findings and identification of calcific deposits. J Rheumatol 33: 119-126, 2006
 14. Hamada J, Tamai K, Ono W, Saotome K: Does the nature of deposited basic calcium phosphate crystals determine clinical courses in calcific peri-arthritis of the shoulder? J Rheumatol 33: 326-332, 2006
 15. Osada D, Fujita S, Tamai K, Yamaguchi T, Iwamoto A, Kamei S, Saotome K: Flexor tendon repair in Zone II with 6-strand techniques and early active mobilization. J Hand Surg [Am] 31: 987-992, 2006
 16. Saotome K, Tamai K, Osada D, Ohshima F, Koguchi Y, Hoshikawa A: Histologic classification of loose bodies in osteoarthrosis. J Orthop Sci 11: 607-613, 2006
 17. Takeyama N, Sakai H, Ohtake H, Mashitori H, Tamai K, Saotome K: Effects of hyperbaric oxygen on gene expressions of procollagen, matrix metalloproteinase and tissue inhibitor of metalloproteinase in injured medial collateral ligament and anterior cruciate ligament. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 15: 443-452, 2007
 18. Osada D, Kamei S, Takai M, Tomizawa K, Tamai K: Malunited fractures of the distal radius treated with corrective osteotomy using volar locking plate and a corticocancellous bone graft following immediate mobilization. Hand Surgery (Asian Volume) 12: 183-190, 2007
 19. Osada D, Kamei S, Matsuzaki K, Takai M, Kameda M, Tamai K: Prospective study of distal radius fractures treated with a volar locking plate system. J Hand Surg [Am] 33: 691-700, 2008
 20. Tamai K, Ishige N, Kuroda S, Ohno W, Itoh H, Hashiguchi H, Iizawa N, Mikasa M: Four-segment classification of proximal humeral fractures revisited: A multicenter study on 509 cases. J Shoulder Elbow Surg, Available online 18 March 2009

和文

1. 浜田純一郎, 大野 弥, 玉井和哉: 肩石灰性腱炎における急性・慢性経過は結晶の性状差でおこるか. 肩関節 28 : 301-304, 2004
2. 益崎浩一郎, 長田伝重, 富沢一生, 藤田聡志, 玉井和哉: 橈骨遠位部三次元骨モデルを用いた有限要素法の試み. 日手会誌 21 : 21-24, 2004

3. 藤田聡志, 長田伝重, 亀井秀造, 武山憲行, 玉井和哉, 早乙女絃一: 掌側ロッキングプレートによる不安定型橈骨遠位端骨折の治療経験. 東日本整災誌 17: 37-41, 2005
4. 富沢一生, 長田伝重, 益崎浩一郎, 林明彦, 玉井和哉: 3次元有限要素法による橈骨遠位掌側ロッキングプレートの遠位ピン最適挿入位置の検討. 日本臨床バイオメカニクス学会誌 26: 159-164, 2005
5. 藤田聡志, 長田伝重, 亀井秀造, 藤原淳, 玉井和哉: SF-36による手根管症候群手術例の評価. 日手会誌 22: 583-586, 2005
6. 加藤伸幸, 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 高井盛光, 玉井和哉, 早乙女絃一: 指趾内軟骨腫に用いた β -リン酸三カルシウム(β -TCP)のX線像の経時的変化. 臨床整形外科 41: 169-173, 2006
7. 藤田聡志, 長田伝重, 亀井秀造, 加藤伸幸, 吉川勝久, 玉井和哉: 高齢者の不安定型橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートによる治療. 東日本整災誌 18: 50-53, 2006
8. 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 益崎浩一郎, 高井盛光, 武山憲行, 玉井和哉, 早乙女絃一: 不安定型橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定と術後早期運動療法. 日整会誌 80: 422-427, 2006
9. 富沢一生, 長田伝重, 益崎浩一郎, 玉井和哉: 橈骨遠位端骨折発生メカニズム—有限要素法による解析—日本臨床バイオメカニクス学会誌 27: 123-126, 2006
10. 玉井和哉, 浜田純一郎, 大野弥, 竹村通雄, 黒田雅大, 真志取浩貴, 押味美和子: Neer分類に含まれない上腕骨近位端骨折. 肩関節 30: 445-448, 2006
11. 亀田正裕, 藤田聡志, 長田伝重, 亀井秀造, 玉井和哉, 野原裕: 手根管症候群に対するSF-36とDASHによる評価の試み. 東日本整災誌 19: 82-85, 2007
12. 藤田聡志, 長田伝重, 亀井秀造, 亀田正裕, 高井盛光, 玉井和哉: 陳旧性橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートを用いた観血的整復内固定術の経験. 骨折 29: 62-65, 2007
13. 玉井和哉, 大野 弥, 竹村通雄, 黒田雅大, 浜田純一郎: 上腕骨近位端骨折のNeer分類 -JSSデータベースの分析- 肩関節 31: 511-513, 2007
14. 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 加藤伸幸, 亀田正裕, 玉井和哉: A0-C型橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレート固定の治療成績と問題点. 骨折 29: 656-660, 2007
15. 矢野雄一郎, 玉井和哉, 野原裕, 吉崎邦夫, 浜田純一郎: 健康人は利き腕と非利き腕を同じパターンで挙上・下垂するか? 肩関節 32: 241-244, 2008
16. 玉井和哉, 大野弥: 上腕骨近位端外反嵌入骨折 -JSSデータベースの検討- 肩関節 32: 321-324, 2008
17. 玉井和哉, 石毛徳之, 黒田重史, 大野弥, 伊藤博元, 橋口宏, 飯澤典茂, 三笠元彦: 上腕骨近位端骨折の分類と治療 -JSSデータベースの検討- 第1部 分類. 肩関節 32: 581-585, 2008
18. 玉井和哉, 橋口宏, 飯澤典茂, 伊藤博元, 石毛徳之, 黒田重史, 大野弥, 三笠元彦: 上腕骨近位端骨折の分類と治療 -JSSデータベースの検討- 第2部 治療. 肩関節 32: 587-592, 2008
19. 亀井秀造, 長田伝重, 亀田正裕, 吉川勝久, 玉井和哉, 野原裕: 橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレートの固定性-屍体手関節モデルによる研究- 日本臨床バイオメカニクス学会誌 29: 229-233, 2008
20. 高岸憲二, 星野雄一, 井出淳二, 杉原隆之, 畑幸彦, 佐野博高, 浜田純一郎, 矢吹省司, 望月由, 鈴木克憲, 柳川天志, 玉井和哉, 小川清久, 熱田裕司, 篠崎哲也: 肩こりに関するプロジェクト研究(平成16-18年). 日整会誌 82: 901-911, 2008

【症例報告】

欧文

1. Hamada J, Tamai K, Saotome K: Secondary chondromatosis in the subacromial bursa: a report of two cases and review of the literature. J Orthop Sci 9: 317-322, 2004
2. Ikegawa S, Tamai K, Ohashi H: Another family with multiple epiphyseal dysplasia harboring the R718W mutation in COMP [electronic response to Jakkula et al. A recurrent R718W mutation in COMP results in multiple epiphyseal dysplasia with mild myopathy: clinical and pathogenetic overlap with collagen IX mutations]. J Med Genet 38528, 2004
3. Osada D, Tamai K, Yano Y, Saotome K: Multiple loose bodies in the elbow showing a snow storm appearance at arthroscopy. J Orthop Sci 10: 422-424, 2005
4. Osada D, Tamai K, Saotome K: T-Condylar Fracture of the Distal Humerus in a 3-Year-Old Child. Hand Surgery (Asian Volume) 10: 125-129, 2005
5. Hamada J, Tamai K, Koguchi Y, Ono W, Saotome K: Case report: A rare condition of secondary synovial osteochondromatosis of the shoulder joint in a young female patient. J Shoulder Elbow Surg 14: 653-656, 2005
6. Osada D, Kameda M, Tamai K: Persistent posterolateral rotatory subluxation of the elbow in cubitus varus. A case report. Hand Surgery (Asian Volume) 12: 101-105, 2007

和文

1. 黒田雅大, 大野 弥, 竹村通雄, 真志取浩貴, 玉井和哉: 順行性上腕骨髄内釘施行後の肩関節症. 肩関節 29 : 531-534, 2005
2. 滝澤佳江子, 浜田純一郎, 玉井和哉, 早乙女絃一: 透析患者に生じた尿毒症性腫瘍状石灰症の4例. 整形外科 56 : 443-447, 2005
3. 本島太, 大野弥, 竹村通雄, 玉井和哉, 野原裕: 烏口肩峰靱帯の全長にわたり骨化を認めた1例. 関東整災誌 39 : 45-47, 2008

【総 説】

和文

1. 玉井和哉: 関節リウマチの画像. 日本医事新報 4167 : 69-72, 2004
2. 浜田純一郎, 玉井和哉: 上腕骨近位粉碎骨折の分類法—術中所見から— Monthly Book Orthopaedics 17 : 1-7, 2004
3. 浜田純一郎, 玉井和哉: 五十肩の病因と病態. Monthly Book Orthopaedics 17 : 13-17, 2004
4. 大野 弥, 玉井和哉: 単純X線診断 (関節リウマチ). 日本臨床 63 (増刊号1) : 392-385, 2005
5. 玉井和哉, 大野 弥: 上腕骨近位端骨折に対するAll-in-one nail固定法の術式と成績. 骨関節靱帯 18 : 117-123, 2005
6. 竹村通雄, 玉井和哉: 腱板広範囲断裂の手術療法—Debeyre法, 広背筋移行術, Paavolainen法. Monthly Book Orthopaedics 18 : 60-65, 2005
7. 大野 弥, 玉井和哉: 鑑別診断の進め方. リウマチ科 35 : 131-135, 2006
8. 玉井和哉: 肩関節周囲炎の保存治療. 整災外 49 : 501-504, 2006

9. 真志取浩貴, 玉井和哉 : 肩関節のリハビリテーション. 関節外科 25 : 632-636, 2006
10. 玉井和哉, 大野 弥, 竹村通雄, 黒田雅大 : All-in-One Nailによる上腕骨近位端骨折の治療. 整災外 50 : 283-287, 2007
11. 矢野雄一郎, 玉井和哉 : 肩関節周辺骨折, 肩腱板損傷. 臨床スポーツ医学 24 : 1203-1210, 2007
12. 真志取浩貴, 玉井和哉 : 肩関節周囲炎・腱板断裂・反復性脱臼の視診・触診のコツ. Monthly Book Orthopaedics 20 : 1-5, 2007
13. 長田伝重, 亀井秀造, 高井盛光, 富沢一生, 玉井和哉, 野原裕 : 小児上腕骨内側上顆骨折の治療. 整災外 50 : 1519-1525, 2007
14. 玉井和哉 : 上腕骨近位端骨折に対する逆行性ピンニング (オールインワン・ネール). 関節外科 27 : 295-303, 2008
15. 北川知明, 玉井和哉, 野原裕 : Keegan型解離性運動麻痺. 整形外科 59 : 104-109, 2008
16. 玉井和哉 : 肩関節初回脱臼に対する治療の現状と問題点. 整災外 51 : 1165-1169, 2008
17. 飯澤典茂, 伊藤博元, 橋口宏, 黒田重史, 石毛徳之, 三笠元彦, 玉井和哉, 大野弥 : 多施設集計に基づく上腕骨近位端骨折データベースの分析. 関節外科 27 : 1302-1309, 2008
18. 玉井和哉 : 上腕骨近位端骨折のX線分類. 関節外科 27 : 1311-1317, 2008
19. 玉井和哉 : 緒言 (誌上シンポジウム 外傷性肩関節脱臼). 臨整外 43 : 1066-1067, 2008

【その他】

和文

1. 玉井和哉 : 肩関節不安定症. マルホ整形外科セミナー166 : 11-14, 2004
2. 玉井和哉 : Editorial 専門医制度. 骨・関節・靭帯 17 : 751-752, 2004
3. 玉井和哉 : 肩のカルシウム沈着. 暮らしと健康 60(3) : 78, 2005
4. 玉井和哉 : 肩の痛み (五十肩). 暮らしと健康 60(5) : 80, 2005
5. 玉井和哉 : 肩痛を生じる疾患の診断と治療. 日本医師会特別医学講座, 2005
6. 玉井和哉 : 第10回国際肩肘関節学会に出席して. 臨床整形外科 43 : 482-483, 2008
7. 玉井和哉 : スポーツ障害—肩の障害. マルホ整形外科セミナー189 : 34-37, 2008
8. 玉井和哉 : 肩の痛み. メディカル朝日 2008年6月号, 2008
9. 玉井和哉 : Personal View—認めすぎていませんか? 整災外 52 : 225, 2009

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
整形外科学	准教授	長田 伝重	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1985年8月～現在	日本整形外科学会会員		
1986年10月～現在	日本リウマチ学会会員		
1987年7月～現在	日本骨折治療学会会員		
1987年12月～現在	日本リハビリテーション医学会会員		
1988年5月～現在	日本手の外科学会会員		
1989年8月～現在	東日本整形災害外科学会会員		
1995年2月～現在	日本肘関節学会会員		
2002年4月～現在	日本手の外科学会評議員		
2002年4月～現在	国際手の外科連合会会員		
2003年1月～現在	国際整形災害外科学会会員		
2005年7月～現在	日本骨折治療学会評議員		
2006年1月～現在	日本肘関節学会評議員		
2006年9月～現在	東日本整形災害外科学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 長田伝重, 酒井宏哉: 新鮮外傷の局所処置, 岩本幸英, 落合直之, 木村友厚, 富田勝郎, 戸山芳昭, 中村孝志編集 整形外科学・外傷学 改訂第7版 文光堂, pp680-685, 2005.			
【原 著】			
欧文			
1. Osada D, Fujita S, Tamai K, Iwamoto A, Tomizawa K, Saotome K: Biomechanics in uniaxial compression of three distal radius volar plates. J Hand Surg 29A: 446-451, 2004.			
2. Fujita S, Osada D, Yamaguchi T, Iwamoto A, Tamai K: Early active exercise after flexor tendon repairs in zones 4 and 5. J Jpn Soc Surg Hand 21: 565-570, 2004.			
3. Osada D, Tamai K, Fujita S, Iwamoto A, Saotome K: Treatment of distal radius fractures using a new designed volar locking plate: a preliminary report. J Jpn Soc Surg Hand 21: 524-529, 2004.			
4. Osada D, Tamai K, Iwamoto A, Fujita S, Saotome K: Dorsal plating for comminuted intra-articular fractures of the distal end of the radius. Hand Surg 9: 181-190, 2004.			
5. Osada D, Fujita S, Yamaguchi T, Tamai K, Saotome K: Volar-locking plate fixation for unstable distal radius fractures in elderly patients. J Jpn Soc Surg Hand 22: 406-410, 2005.			
6. Osada D, Fujita S, Tamai K, Yamaguchi T, Iwamoto A, Saotome K: Flexor tendon repair in zone II with six-strand			

techniques and early active mobilization. J Hand Surg 31A: 987-992, 2006.

7. Saotome K, Tamai K, Osada D, Oshima F, Koguchi Y, Hoshikawa A: Histologic classification of loose bodies in osteoarthritis. J Orthop Sci 11: 607-613, 2006.

和文

1. 長田伝重, 藤田聡志, 益崎浩一郎, 岩本 玲, 加藤仲幸, 矢野雄一郎, 玉井和哉, 早乙女絃一: 橈骨遠位端骨折に対する新開発掌側用ロッキングプレートによる治療. 臨整外 39:933-938, 2004.
2. 長田伝重, 藤田聡志, 岩本 玲, 亀井秀造, 高井盛光, 亀田正裕, 林明彦, 玉井和哉, 早乙女絃一: 掌側ロッキングプレート (DRV Locking plate) による橈骨遠位端骨折の治療経験. 骨折 27: 347-350, 2005.
3. 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 加藤仲幸, 押見美和子, 玉井和哉, 早乙女絃一: 関節造影を必要とした小児上腕骨遠位部骨折の検討. 日肘会誌 12: 151-152, 2005.
4. 長田伝重, 亀井秀造, 亀田正裕, 富沢一生, 玉井和哉, 野原 裕: 舟状骨不顕性癒合例の検討. 東日本震災会誌 19: 94-96, 2007.
5. 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 加藤仲幸, 亀田正裕, 玉井和哉: AO-C型橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレート固定の治療成績と問題点. 骨折 29: 656-660, 2007.
6. 長田伝重, 亀井秀造, 富沢一生, 亀田正裕, 野原 裕: 掌側転位型橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレート固定の治療成績と問題点. 日手会誌 24: 270-274, 2007.

【症例報告】

欧文

1. Osada D, Tamai K, Yano Y, Saotome K: Multiple loose bodies in the elbow showing a snow storm appearance at arthroscopy. J Orthop Sci 10: 422-424, 2005.
2. Osada D, Tamai K, Saotome K: T-condylar fracture of the distal humerus in a three-year-old child. Hand Surg 10: 125-129, 2005.
3. Koguchi Y, Yamaguchi T, Yamato M, Osada D, Saotome K: Alveolar soft part sarcoma of bone. J Orthop Sci 10: 652-655, 2005.

【総 説】

和文

1. 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 益崎浩一郎, 高井盛光, 武山憲行, 玉井和哉, 早乙女絃一: 不安定型橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定と術後早期運動療法. 日整会誌 80:422-427, 2006.
2. 長田伝重, 亀井秀造, 玉井和哉, 高井盛光, 益崎浩一郎, 富沢一生, 亀田正裕, 野原 裕: 高齢者の橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートによる治療. 別冊整形外科 52: 53-58, 2007.
3. 長田伝重, 亀井秀造, 高井盛光, 富沢一生, 玉井和哉, 野原 裕: 小児上腕骨内側上顆骨折の治療 (特集: 小児肘関節周辺骨折の治療). 整・災外 50: 1519-1525, 2007.
4. 長田伝重, 高井盛光, 加藤仲幸, 助川卓也, 玉井和哉, 野原 裕: 橈骨遠位端骨折に対するDRV Locking Plate System を用いた治療 (特集: 骨折治療におけるロッキング・プレートの有用性と限界). 整・災外 51: 1369-1377, 2008.

【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
整形外科学	准教授	種市 洋	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2000年～現在	日本脊椎脊髄病学会 評議員		
2006年～現在	東日本整形災害外科学会 評議員		
2007年～現在	日本脊椎インストゥルメンテーション学会 評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
欧文			
1. <u>Taneichi H</u> : Clinical outcomes of unilateral TLIF using the brantigan interbody fusion cage for degenerative condition of the lumbar spine, In “Intervertebral fusion using carbon fiber reinforced polymer implants” (ed. John W. Brantigan and Carl Lauryssen) Chapter 11. pp215-230, 2006.			
2. <u>Taneichi H</u> : Unilateral transforaminal lumbar interbody fusion using the brantigan interbody fusion cage, In “Intervertebral fusion using carbon fiber reinforced polymer implants” (ed. John W. Brantigan and Carl Lauryssen) Chapter 31. pp515-524, 2006.			
3. Matsumura A, <u>Taneichi H</u> , Kaneda K: Load-bearing capabilities of the brantigan interbody fusion cage, In “Intervertebral fusion using carbon fiber reinforced polymer implants” (ed. John W. Brantigan and Carl Lauryssen) Chapter 15. pp277-288, 2006.			
和文			
1. <u>種市洋</u> : TLIF. 鈴木信正ほか編, 腰椎変性疾患 基本知識とチェックポイント メジカルビュー社, pp250-257, 2004.			
2. <u>種市洋</u> , 金田清志: 胸腰椎移行部前方除圧固定術. 徳橋泰明編, 執刀医のためのサージカルテクニック 脊椎メジカルビュー社, pp85-100, 2004.			
3. <u>種市洋</u> : 脊髄損傷 (リハビリテーションを含む). 山口徹, 北原光夫編, 今日の治療指 2004 医学書院, p724, 2004.			
4. <u>種市洋</u> : 脊椎・脊髄外傷の治療原則. 清水克時編, 新世代の整形外科手術 25 巻・基本整形外科手技—検査法、外来・病棟処置法、手術法 メジカルビュー社, pp147-156, 2005.			
5. <u>種市洋</u> : 低侵襲脊椎固定術のための腰仙椎後方アプローチ. Mini-open TLIFのための傍脊柱筋間アプローチと正中アプローチの併用. 岩本幸英編, 新世代の整形外科手術 28 巻・Useful Surgical Approach—定型からオリジナルまで メジカルビュー社, pp141-145, 2005.			
6. <u>種市洋</u> : 脊椎分離症、脊椎分離すべり症. 山口徹, 北原光夫編, 今日の治療指針 2005 医学書院, p730, 2005.			
7. <u>種市洋</u> : いわゆる腰痛症 (急性腰痛症を含む). 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編, 今日の治療指針 2006 医学書院, p748, 2006.			

8. 種市洋: 脊椎脊髄手術合併症の動向. 芝啓一郎編, 脊椎外科の要点と盲点: 胸腰椎 文光堂, p122-123, 2006.
9. 種市洋: 破裂骨折に対する前方手術 破裂骨片摘出のコツ. 芝啓一郎編, 脊椎外科の要点と盲点: 胸腰椎 文光堂, p276-282, 2006.
10. 種市洋, 野原裕: 腰椎後方進入椎体間固定術 (PLIF). 戸山芳昭編, 最新整形外科学大系 12 巻・胸腰椎・腰椎・仙椎 中山書店, p158-164, 2006.
11. 種市洋: 脊椎損傷 胸腰椎損傷. 戸山芳昭編, 最新整形外科学大系 12 巻・胸腰椎・腰椎・仙椎 中山書店, p200-207, 2006.
12. 須田浩太, 種市洋: 脊椎損傷 腰椎・腰仙椎損傷. 戸山芳昭編, 最新整形外科学大系 12 巻・胸腰椎・腰椎・仙椎 中山書店, p208-215, 2006.
13. 種市洋: 腰椎すべり症に対する instrumentation. 馬場久敏編, OS NOW Instruction 6 巻・Spinal Instrumentation メジカルビュー社, p131-143, 2008.
14. 種市洋, 野原裕: 脊柱側弯症③前方固定術. 藤井敏男編, 小児整形外科学の要点と盲点 文光堂, p286-289, 2009.

【原 著】

欧文

1. Ebihara H, Ito M, Abumi K, Taneichi H, Kotani Y, Minami A, Kaneda K: A biomechanical analysis of metastatic vertebral collapse of the thoracic spine: a sheep model study. Spine 29: 994-999, 2004.
2. Nohara Y, Taneichi H, Ueyama K, Kawahara N, Shiba K, Tokuhashi Y, Tani T, Nakahara S, Iida T: Nationwide survey on complications of spine surgery in Japan. J Orthop Sci 9: 424-433, 2004.
3. Taneichi H, Suda K, Kajino T, Kaneda K: Traumatically induced vertebral artery occlusion associated with cervical spine injuries: prospective study using magnetic resonance angiography. Spine 30: 1955-1962, 2005.
4. Taneichi H, Suda K, Kajino T, Matsumura A, Moridaira H, Kaneda K: Unilateral transforaminal lumbar interbody fusion and bilateral anterior-column fixation with two open-box carbon cages per level: clinical outcomes during a minimum 2-year follow-up period. J Neurosurg Spine 4: 198-205, 2006.
5. Matsumura A, Taneichi H, Suda K, Kajino T, Moridaira H, Kaneda K: Comparative study of radiographic disc height changes using two different interbody devices for transforaminal lumbar interbody fusion: open box vs. fenestrated tube interbody cage. Spine 31: E871-876, 2006.
6. Suda K, Ito M, Abumi K, Haba H, Taneichi H, Kaneda K.: Radiological risk factors of pseudoarthrosis and/or instrument breakage after PLF with the pedicle screw system in isthmic spondylolisthesis. J Spinal Disord Tech 19: 541-546, 2006.

和文

1. 野原裕, 植山和正, 川原範夫, 芝啓一郎, 谷俊一, 種市洋, 徳橋泰明, 中原進之介: 日本脊椎脊髄病学会脊椎手術調査報告. 日脊会誌 15: 546-553, 2004.
2. 種市洋, 久木田裕史, 須田浩太, 楫野知道, 松村昭, 森平泰, 金田清志: 腰椎インストゥルメンテーション手術後のMRSAによる手術部位感染に対する抗菌治療-インプラント抜去回避のために. 臨整外 40: 431-440, 2005.
3. 種市洋, 野原裕, 植山和正, 川原範夫, 芝啓一郎, 谷俊一, 徳橋泰明, 中原進之介: 脊椎手術合併症の実態-日本脊椎脊髄病学会の調査から-. 日整会誌 80: 5-16, 2006.

【症例報告】

欧文

1. Sudo H, Taneichi H, Kaneda K: Secondary medulla oblongata involvement following middle cervical spinal cord injury associated with latent traumatic instability in a patient with ossification of the posterior longitudinal ligament. Spinal Cord 44: 126-129, 2006.

【総 説】

和文

1. 楫野知道, 種市洋: 腰部脊柱管狭窄症に対するクルティカルパス (PLIF/TLIF) . 整・災外 47: 573-578, 2004.
2. 種市洋: TLIF (transforaminal monoportal lumbar interbody fusion). The Spine Perspective 2: 10-14, 2005.
3. 種市洋: 胸腰椎損傷 (Burst Fracture) に対する手術療法: 前方か後方か - 前方の立場から -. 日整会誌 79: 321-326, 2005.
4. 種市洋: 頰椎椎弓根スクリューの臨床. スクリュー刺入法と合併症対策. 脊椎脊髄 18: 1043-1052, 2005.
5. 種市洋: 高齢者の骨粗鬆症性椎体圧潰 (偽関節) に対する手術療法. MB Orthop 19: 171-181, 2006.
6. 種市洋: 腰椎すべり症に対するMini-open TLIF-低侵襲脊椎固定のための傍脊柱筋間アプローチと正中アプローチの併用. 脊椎脊髄 19: 399-405, 2006.
7. 種市洋: 骨粗鬆症性椎体圧潰 (偽関節) に対する手術療法. 整・災外 49: 807-813, 2006.
8. 大友一, 種市洋, 須田浩太, 楫野知道, 森平泰, 金田清志: 骨粗鬆症性椎体圧潰に対する薬物療法-骨粗鬆症性椎体骨折後の椎体圧潰進行にビスフォスフォネート投与は影響を与えるか?- . 整・災外 49: 815-822, 2006.
9. 種市洋, 忽那辰彦, 久木田裕史, 須田浩太, 楫野知道, 大友一, 森平泰, 金田清志: 脊椎インストゥルメンテーション手術における超短期抗菌薬予防投与 (Antimicrobial Prophylaxis) -手術部位感染予防効果判定のための前向き研究-. 骨・関節・靭帯 19: 607-701, 2006.
10. 種市洋: 金田の脊椎損傷分類. 脊椎脊髄 20: 158-159, 2007.
11. 種市洋: 脊椎固定術-変性すべり症、変性側弯症. 痛みと臨床 7: 312-319, 2007.
12. 種市洋: 腰椎変性側弯症の神経障害-特徴と発現機序. 脊椎脊髄 20: 972-978, 2007.
13. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 特発性側弯症に対する前方矯正固定術. 整・災外 50: 1399-1404, 2007.
14. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 特発性側弯症の矯正手術-前方instrumentationによる矯正固定. 脊椎脊髄 21: 37-42, 2008.
15. 種市洋: 椎弓根スクリューによる椎骨動脈損傷回避のための戦略-解剖と合併症対策-. 関節外科 27: 850-858, 2008.
16. 種市洋: 変性後側弯症の治療. 関節外科 28: 625-631, 2009.
17. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 変性後弯症・変性後側弯症の手術治療. 脊椎脊髄 22: 694-700, 2009.
18. 種市洋: 脊椎・脊髄損傷の分類. ペインクリニック 30: 598-608, 2009.
19. 種市洋: 脊椎インストゥルメント-脊椎インストゥルメンテーション手術後感染. 整形外科 60: 848-854, 2009.

【その他】

和文

1. 種市洋, 庄野泰弘: 労働災害による重度椎体破壊を伴った頸椎頸髄損傷に対する椎弓根スクリーシステムを応用した後方一期的脊柱再建術の開発. 独立行政法人労働者健康福祉機構「若林記念医学研究結果報告集」pp205-218, 2004.
2. 根尾昌志, 種市洋, 松山幸弘, 岩崎幹季: 座談会・脊椎外科における重篤な合併症とその対策. The Spine Perspective 2: 1-6, 2005.
3. 種市洋, 池松秀之, 柏木征三郎: 座談会・脊椎圧迫骨折の最新の治療. 臨床と研究 83: 609-618, 2006.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
整形外科学	講師	稲見 聡	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1991年4月	日本整形外科学会		
1997年4月	日本脊椎脊髄病学会		
2008年10月	日本側弯症学会		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 稲見聡, 平林宏之, 水町隆雄: 頰椎症性脊髄症に伴う頰部痛の術後早期変化. 臨床整形外科 42: 801-805, 2007.			
2. 稲見聡, 平林宏之, 水町隆雄: 頰椎症性脊髄症における体幹屈曲筋の評価. 臨床整形外科 42: 1211-1213, 2007.			
【症例報告】			
【総 説】			
和文			
1. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 特発性側弯症に対する前方矯正固定術. 整形災害外科 50: 1399-1404, 2007.			
2. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 特発性側弯症の矯正手術—前方instrumentationによる矯正固定. 脊椎脊髄ジャーナル 21: 37-42, 2008			
3. 稲見聡, 種市洋, 野原裕: 腰部変性側弯症(後側弯症)に対する手術療法. 脊椎脊髄ジャーナル 21: 481-486, 2008			
4. 稲見聡, 種市洋, 野原裕: 神経線維腫症に伴う脊柱後弯症の手術治療. 脊椎脊髄ジャーナル 22: 558-563, 2009			
5. 種市洋, 稲見聡, 野原裕: 変性後弯症・変性後側弯症の手術治療. 脊椎脊髄ジャーナル 22: 694-700, 2009			
【その他】			